

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	8	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校	記 載 者	青木 暁乃
------	---	-------	----------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
安全	生徒の主体性と人権尊重の理念に基づく教育実践と体制整備	・生徒や保護者が学校は安心して通える場所だと感じている。 ・教員は、互いに人権を尊重する対応が取れていると感じている。	B	B	丁寧な言葉遣いや傾聴の姿勢が浸透し、生徒や保護者が安心できる環境が構築されている。引き続き、慣れによる形骸化を防ぎ、心理的安全性を高める努力を継続したい。
	命を大切に作る行動力の育成と体制の強化	・教員・生徒が発災時に自分がとる行動が分かり、行動することができる。 ・生徒が、自分自身を含む周りの人が大切な存在であると感じている。	B	B	不測の事態に対し、マニュアルに基づき安全を確保できたこと、また手順の改善を重ねたことはよかった。今後は、本年度発生した飛び出し事案の原因を分析の上、再発防止を徹底したい。また「家庭で一人の時の被災」「パニックを起こした生徒の避難」など個別場面を想定した訓練や学習も検討した方がよい。
専門	ニーズに応じた自立活動の実践	・生徒が、自分の課題を認識し、達成しようと学習に取り組んでいる。 ・職員は、自分の学びが積み重なったと実感している。	B	B	小集団で丁寧に指導したことで、生徒が自己理解を深め主体的に取り組めた点は評価できる。年度当初に、生徒のニーズを十分に把握しきれなかった反省点をいかし、今後は生徒の意向をさらに反映させ、他教科との関連性も高めていくことも大切である。「生徒自身が学校をどう感じているか」というアンケートで生徒主体の評価を行うことも必要である。
	つながりのある支援と指導の充実	・学習の取り組み状況の発信。 ・単元配列表を基にした各教科等の関係性を踏まえた授業の実施。 ・明確な授業計画を入れた年間指導計画の見直し。	B	B	ICT（生成AI等）の活用により、教員と生徒の相互理解が深まり、生徒の主体的な学びや関心を引き出すことができた点はよかった。今後は、学校での学びがどのように生徒の「夢」の実現に繋がるのかを明確化し、保護者に対して年間指導計画を踏まえ、学習の目標や成果を伝えられるようにする必要がある。

連携	自立と輝きに向けた地域や関係機関との共同の充実	・学校運営協議会への、教員や保護者の参加と支援内容の周知。 ・Instagramやホームページによる機会をとらえた学習や取り組みについての発信。	A	A	Instagramの頻繁な更新や学校だよりの発行により、教育活動が可視化され、地域や保護者の関心が高まった。8月の協議会では保護者とワーク地域先企業が直接意見交換し、学校への理解を深める貴重な機会となった。しかし、参加しなかった保護者には十分に浸透していない面もあるため、今後も継続的な情報発信が必要である。
	地域とつながりのある教育実践や地域への貢献	・インクルーシブの捉え方を確認する機会の設定。 ・学習におけるつながりや効果を、適宜評価する。 ・生徒同士のつながりを持てるようにする縦割り作業の実施。 ・相互理解を深める沼津城北高校との共同学習の実施。	A	A	城北高校との共同学習は、今までにない取組が行われている。高校側の提案で実施した授業もあり、良好な関係のもと共生共育が一步前進したと考えられる。本年度のみの取組とならないように来年度の計画に組み込み、学校の強みとなるようにしていきたい。
	やりがいを持てる職場環境の工夫	・業務負担見直しの適宜実施 ・業務効率化を図るためのICT活用研修の実施。 ・ウェルビーイングな職場にするための定期的な研修の実施。	B	B	ICTの利用で事務の効率化が図れている。しかし、特定の教員への業務集中に対して、管理職によるバランス調整と「勇気ある引き算（業務の精選）」が必要である。